

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501664		
法人名	公益財団法人大牟田医療協会		
事業所名	グループホーム ファミージュ	ユニット名	2ユニット
所在地	福岡県大牟田市野添町20番地19		
自己評価作成日	平成29年3月16日	評価結果市町村受理日	平成29年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年5月11日	評価確定日	平成29年5月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の意向に沿って、日々の生活を支援している。医療連携において、同一法人の病院(外来・訪問診療・入院・リハビリ送迎)及び訪問看護ステーションと報告・連絡・相談を行い、疾患の対応や健康管理を行っている。地域とのつながりを保つ為、運営推進会議を開催して、地域を巻き込んだ話し合いを実施している。会議では、利用者の生活状況の報告や意見交換を、行っている。施設では、地域住民や市内全域から、施設見学を、受け入れ、施設選びのポイントや必要とされる相談窓口の紹介を実施している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホームファミージュ”の周辺は緑が多く、静かな環境の中で過ごされている。隣接する病院にリハビリに行かれる方もおられ、リハビリの行き帰りに鳥の鳴き声を聞きながらお花見をされている。ホーム内はリビングと廊下の天井が吹き抜けで、天窓もある事から明るさを保てており、広いリビングではご利用者個々に思い思いの生活をされている。職員が水仙の花などを持参して下さり、ご利用者の居室に飾って下さるなど、職員の優しい関わりが見られている。職員主体でホームの庭に畑が作られ、ジャガイモや苺等が作られており、季節に応じて、ご利用者もフキの皮むき等をして下さっている。今後も子ども達との交流の機会や散歩の時間等を増やし、笑顔溢れる生活にしていくと共に、管理者と職員の情報交換を密に行い、職員個々の知識技術の向上に向けた取り組みを始めていく予定である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったり、ゆっくり、安心して暮らせるよう、支援している。	27年度に「ゆったり、ゆっくり、気ままに、健やかに、時間を過ごせる環境を目指して」という理念に変更している。「健やかに」の中には“心身機能の維持・向上”を含めており、日々の体操や生活リハビリ、玄関等での日向ぼっこをされたり、通院リハビリに行かれる方もおられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	人情ネットワークに参加して、地域住民と地域活動のつながりを維持している。	人情ネットワークに“おにぎり”やお茶、味噌汁を提供している。クリスマス会や敬老会の時に、フランス同好会やカラオケ同好会の方が盛り上げて下さり、中学校の体験学習も受け入れ、ゲーム等を楽しまれた。地域交流センターで、地域住民向けにサービス利用の手続き等の説明をさせて頂いた。	ご利用者が子ども達との触れ合いを喜ばれる事から、今後も地域の保育園や幼稚園、小学生等の子ども達との交流方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域における認知症の方々や高齢者の様々な問題に対する対処法を、話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告・相談を行っている。	会議を通して、参加者の方々と良き情報交換ができています。多くの民生委員が参加して下さり、地域行事(敬老会等)を教えて下さったり、市の方から“マレージ事業”等の説明をして頂いている。今後も家族への声かけを継続する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例時、市役所、地域包括支援センターと連携して、対応している。	管理者が市役所を訪問し、職員の資格に関するアドバイスを頂いたり、市の会議に出席し、ご利用者の支援に関するアドバイスを頂いた。管理者がケアマネ連絡協議会主催の研修会準備等に関わり、市の担当者と一緒に活動している。安心介護相談員も訪問(月1回)して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身状況に、配慮した対応を行い、拘束のない対応。	ご本人の思いを聴くようにしており、穏やかに過ごされている方が多い。身体拘束をしないための福祉用具の選定や適切な姿勢を看護師からアドバイスして頂いたり、別系列の病院で「つなぎ服」を着用していた方も、入居時点で外す事ができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への声かけ、身体介護で、利用者の思いと、異ならないよう、配慮している。新聞の切り抜きも、活用している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の活用支援を行い、利用者・利用者家族の不安軽減を図っている。	管理者が社会福祉士や精神保健福祉士等の資格を有しており、入居時に家族に制度を説明したり、入居後も制度の必要性を確認している。家族から制度利用の希望があり、手続きの支援が行われた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明には、細かく説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・地域のネットワーク・民生委員、安心介護相談等へ、施設運営や意向を表している。	“ファミーユ便り”を家族に郵送(毎月)している。家族の面会時は管理者等が日頃の状況を報告し、要望等を伺っている。入院時に「ホームに戻りたい」と言う希望があり、看護師等と情報交換を行うと共に、食事の支援等を行い退院する事ができた。家族交流会では「おやつ作り」を楽しまれた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の支援のありかたや、介護の意味を、機会あるごと、説明している。	日々の業務の中で職員同士の意見交換を行うと共に、申し送りノートや日誌も活用している。管理者がケア内容を絵にしたり、写真を撮り、職員全員で共有するように努めている。法人内の研修の在り方も検討し、年間計画を作成すると共に、研修受講ができるように勤務調整も行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務者研修・初任者研修等、勤務に配慮して、対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用は、本人の意欲、適性におうじて、行っている。	面接時は優しさや素直さ等を大切に採用している。料理上手、壁飾りが得意、リンパマッサージが得意、畑仕事が得意など、職員個々の特技を発揮して頂いている。希望休(有給)を取りやすい環境を作ると共に、職員間の応援体制も取れるように努めている。	職員個々の経験や能力に基づいて個別育成を続けているが、今後は新人職員の育成方法を検討すると共に、職員個々の能力(できる事、苦手な事等)を評価し、今後の業務内容の検討や育成計画を作成していく予定である。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権について、人権に関する記事を、スタッフで確認している。	管理者や主任は、職員が丁寧なケアを行っているかの確認している。「自分もいつか介護を受ける身になる」「自分がされたらどうか」等の視点を大切にすると共に、「できない所を手助けしている」と言う気持ちで接するように伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加を促している。資格取得に向けて、支援を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他の施設ケアマネや居宅ケアマネ、特養相談員と意見交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、本人・家族の必要とされていることを、見つけ、支援する。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し、本人・家族の必要とされていることを、見つけ、支援する。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護の現場は、常にその時であり、必要とされる事案に対して、支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	受け身でなく、自発的に動ける支援を行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族・スタッフで、喜びあえる関係性。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	女学校時代の同級生、職場の同僚等の面会では、楽しめるよう、場所の提供と、遠慮なく会話をされている。	ご利用者同士が同級生だった方もおられ、会話が弾まれている。家族や知人(近隣住民など)の訪問も頻繁で、面会時は、ゆっくり寛げるようにしている。家族と一緒に商店街や散髪屋に行かれる方もおられ、外出の準備をさせて頂いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の中をとりつぎして、おだやかに、過ごされている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族より、声をかけられて、退所後の本人の状況報告を、行われる。入所中の、生活を、懐かしく、楽しめるとのこと。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向に沿った対応、提示と選択。	入居時は、居宅時代の介護支援専門員の情報を参考にすると共に、ご本人や家族との会話の中から生活歴等を把握し、センター方式(1枚)やアセスメントシートに記録している。会話が困難な方も表情や行動を観察し、思いを察するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より、生活歴、暮らし方、生活環境等、話をされる方は、傾聴し、話をされない方は、配慮して、対応する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイルは、それぞれ違い、個々の要望に応じて、対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と話を伺い、反映している。	職員全員で心身状況の変化等を確認し、介護支援専門員と職員が計画の原案を作成している。必要なケアと共に、家事手伝い(洗濯たたみ)等を盛り込み、通院リハビリに行かれている方もおられる。今後は24時間の日課表(できる事、介助が必要な事、留意点等)を作成する予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の記録用紙の提案(個別)や、心身の状態変動にて、変更を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人だけでなく、家族の支援(在宅で暮らす本人の妻)の介護のありかた。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域協力住民との連携で、ボランティア活動の受け入れや、地域協力住民の活動支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・利用者家族に対して、医師より説明、同意を得ている。	体調変化時はホームの看護師に報告している。通院の送迎は職員が行い、管理者が受診に同席している。入院中も看護師等と情報交換し、「食べられる能力」と「食べたい」と言うご本人の思いを病院の看護師に報告し、入院中にホームの食事を運ぶ等の対応も行われた。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的対応は、訪問診療・訪問看護、外来との報告・連絡・相談を、行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族・本人の意向を大切に、退院にむけての、働きかけを支援し、退院に至るケースあり。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人・医療機関・施設で、共通認識を持ち、対応している。	医療ニーズが高くなった場合も、訪問診療や訪問看護を利用でき、主治医から病状や入院の必要性を家族に説明している。ご本人や家族の意向を確認し、入院ぎりぎりまで点滴を受ける方もおられ、「看取りにおける同意書」も作成し、医療処置の希望も確認している。「最期までホームで」と希望される方が多い。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に、対応ができるよう、マニュアルをつくっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害対策における訓練を、法人全体にて実施。在宅事業所の支援体制を行っている。	消防署の方と夜間想定で訓練されており、民生委員の方が利用者役になって下さっている。災害時は居室のベランダに避難し、窓を閉め、シャッターは閉めないルールになっている。29年3月は病院と一緒に水害想定訓練も行われ、高台に避難する訓練が行われた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的人権の尊重・思いを受けて、対応。	言葉遣いの指導を続けると共に、羞恥心にも配慮し、ドアを閉めておむつ交換するように努めている。理念にある“ゆったり”とした気持ちで対応できるよう、職員も日々感情コントロールを続けている。ご利用者との会話を増やしており、発語が増えた方もおられる。	「言葉遣いも身体拘束である」ことを職員に伝えている。日頃の言動で気になる時は注意しているが、今後も職員個々に馴れ合いの言動になっていないか、語尾が強くなっていないか等の振り返りをしていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語・非言語にかかわらず、利用者の心身の状態像をみて、対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活スタイルを大切に、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や気持ちで、おしゃれされるよう、支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食 刻み食 軟ご飯等の工夫。	献立は病院の管理栄養士が作ったものを参考にしている。季節の旬の食材を採り入れ、3食とも職員が手作りしている。畑のジャガイモ等も使用し、ご利用者もフキの皮むきや豆むき、もよしのひげ取り等をして下さっている。咀嚼や嚥下に応じ、食事の形態を変えている。	今後も誤嚥性肺炎の予防のため、食事に関するアセスメントを強化し、座位保持の工夫や食事介助、飲み込みの確認の仕方等を含めた介護技術を勉強していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は、10:00 15:00摂取の機会を設定している。栄養バランスのよいように、食事、献立を、つくっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表にて、確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を、用いて、排泄パターンを確認して、対応している。	両ユニット共通の排泄チェック表を使用している。布の下着を着用し、排泄が自立している方もおられ、必要な方は個別の誘導や排泄支援を行っている。事前誘導を行う事で失禁も減り、パッド交換の回数も減っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄が、安心、安全にできるよう、医療との連携を、行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日には、本人に、入浴意思確認して、対応している。	湯船に浸かり、ゆっくり入浴されており、職員との会話を楽しまれている。体調に応じてシャワー浴と足浴をされる方もおられ、ご利用者の状況に応じて、薬用石鹸や低刺激石鹸等を使用している。できる所は洗って頂いており、入浴以外はトイレでの陰部洗浄やモーニングケアを行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態確認と本人の意向で、休息支援を、行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時、薬の説明書を、連絡ノート、観察記録に添付している。服薬介助は、利用者の心身の状況に応じて、介助方法を個別に行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換できるよう、本人の嗜好を尊重して、対応。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や家族の希望により、外出、外泊ができるよう、支援している。	日々の会話の中で外出の希望を確認している。日向ぼっこの機会を作られたり、母体病院の通院(リハビリ)時に桜の花見等を楽しまれている。家族と一緒に散髪や郵便局に行かれる方もおられる。	今後も職員全員が外出の意識を高め、日向ぼっこや散歩の機会を増やしていきたいと考えている。ご利用者個々の日課表(3表)を作成し、その中に散歩などを入れていく予定である。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の所持金は、ない。必要なものは、家族が、購入されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙を、代読して、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高いホールでの利用者間の語らいは、心地よい空間。	リビングと廊下の天井が吹き抜けで、天窓もあり、開放的な空間となっている。季節の花を職員が飾って下さり、季節を感じて頂いている。職員が温湿度調整を行い、冬は床暖房や加湿器を使用している。毎日の掃除も徹底し、換気も行われている。男性のご利用者も洗濯物を畳んで下さり、新聞等を読まれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の語らいが、できるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人使用のオーバーテーブルの持ち込みや時計、カレンダーを使用されている。	ベッドと洗面台は備え付けで、テレビやラジカセ、衣装ケース等と共に、愛用の目覚まし時計を日々の生活の中で持ち歩かれている方もおられる。枕元に電灯を設置し、本を読まれる方もおられ、家族の写真も飾られている。天井の電気に紐を付け、ベッド上で消せるように工夫されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、段差等の配慮を、行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		